

1万3千年もの
日本の歴史

文字不要のクニ～にほん

日本には文字がありません

私たちSSWは、家庭訪問で会えなかった時に置手紙などをします。その場に居ない人に、気持ちを伝えるために、そうします。

そんな手紙を書いているとテレビで、佐賀東高書道部によるパフォーマンスが放送されたので、何となく、『文字』について考えたのでした。

☆

日本中、津々浦々に、そして山奥にも集落があります。そこで生活している限り、伝えたい事は伝えられます。だから手紙は必要ないでしょう。

そもそも日本はどこでも、どの季節でも、近くの野山や海岸で簡単に食糧が手に入る、豊かな土地なのです。もしも野山の食料がなくなれば、新しい土地に移り住めば済みました。

縄文時代の、数百年続いた大集落の遺跡も見つけましたが、それは例外。ほとんどは数十年単位で消えた、小さな集落ばかりです。

元々日本に住む人は、そのような生活が成り立つほどの人数が集まり、隣近所の集落と海幸と山幸を仲良く交易する民族であり、争う必要が少なかったのではないのでしょうか。

そのような心情の国だからか、外国から来た人たちが、口をそろえて町にゴミが落ちていない事や、行儀よく行列を作る日本人に驚き、そして、ほめています。コロナ禍も、そんな日本だから他の国のように流行らないのだ、とも言っています。

★

しかし弥生時代になると大陸から、農耕文化と、+そのための金属製の道具を持った人が多数渡来しました。

すると、わざわざ海山に出かけなくても、たくさんの食糧が手に入る、便利な社会に変化します。

これによって、集落が大きくなって、それを

養えるだけの食糧も蓄えられるようにもなります。

すると野良仕事はせず、財産を管理する人が生まれますし、文字を用いて記録する係も生まれた事でしょう。

こうして《クニ》はどんどん大きくなり、《クニ》の端々まで決まり事を伝えるのにも、文字が用いられたと考えられます。

生活の便利さと、文字の便利さは、社会の成長に大きく貢献しました。

しかし、社会の成長は、それまで可能だった新しい土地への移住を、向こうに田畑を持つ大きな集落があると難しくしたはずです。

やって来た人が、「いいよ」で済む人数だった良かったけれど、大人数だと受入れは拒まれたでしょう。争いが生じてても不思議ではありません。お互いが知らない者同士だと、遠慮なく暴力を振るう事にもなったかも知れません。

☆★

ネット社会の到来は、汗をかいて働く機会を失くし、これまでにない便利さをもたらしました。

もしかするとそれが、これまでにない種類の争いを作り出したかも知れません。

ネット社会が作り出した、努力しなくて安楽な環境はかえって、不登校や引きこもる人を増やしてはいないのでしょうか。そしてさらに、もっと内側の世界だと思ってネット社会に入り、思いがけないトラブルに見舞われる、そんな事もあるようです。便利なものと引き換えに、自分らしさを失わないで下さいね。

